

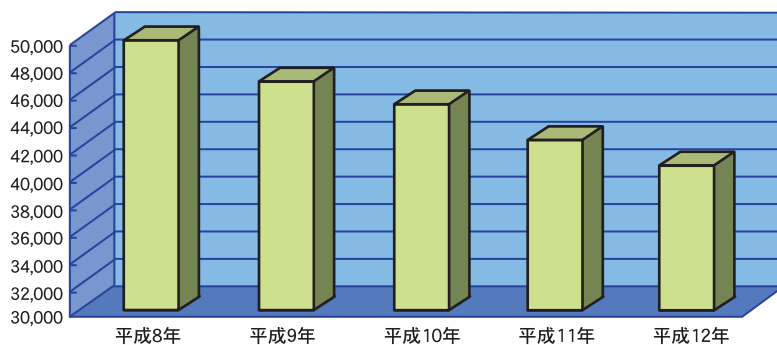
陸上・海上交通の整備

バス事業の現状と課題

沖縄県内におけるバス事業は、通勤・通学・通院等の地域住民の日常生活を支える公共機関として重要な役割を担っているものの、自家用車の普及により利用者は恒常的に減少しています。自家用車の普及は道路交通渋滞や大気汚染等の問題を顕在化させており、こういった環境問題、エネルギー問題に対応するためには、バス事業の役割は今後ともますます重要になってくるものと考えられます。

こうした中、引き続き、ダイヤの効率化、車両の更新・バス停上屋の整備等のサービス改善を図っていくとともに、朝夕のラッシュ時間帯の定時制確保のための施策が講じられる必要性があります。なお、かかる問題意識から、昨年度、運輸部においては、バス事業者の協力の下、郊外の駐車場において自家用車からバスに乗り換えて都心部に向かう方法（パーク・アンド・バスライド）の実証実験を行ったところです。

沖縄県内の乗合バス輸送人員の推移（千人）



「パーク・アンド・バスライド」の実証実験



渋滞する国際通り



久高～安座間に就航しているフェリーくだか

海上交通の整備

有数の島嶼からなる沖縄県において、旅客、貨物とも県外及び県内の移動においては、海上交通の果たす役割は大きい。本土航路においては、輸送人員、運航回数ともに減少傾向にあるが、貨物量は年々増加の傾向にあります。

本島と離島を結ぶ航路は基本的には生活航路であり、当面輸送需要の大幅な変動は見込まれないが、輸送人員は基本的に増加傾向にあり、各島における観光振興の成否いかなでは将来的に輸送需要が増大することも考えられます。

離島航路は、旅客輸送に加えて、生活必需物資等の貨物の大量輸送及び自動車航送という島民生活に必要不可欠なサービスを提供しているが、一部を除いて経営の合理化に努力しているにもかかわらず、赤字を余儀なくされているのが現状です。

その助成策として国、県、市町村で欠損額を補助しています。今後その

基本的役割が発揮できるよう、維持を図るとともに、観光交通にも配慮しながら、交通需要への対応を進めていく必要があります。

海上交通に関しては、荒天時の欠航が多いという指摘がなされています。船舶が唯一の交通手段である島においては、確実性、定時制の向上は重要な問題であり、観光客等の需要の動向を維持しつつ、快適性、利便性を高め、就航率を向上させるため、船舶の大型化、高速化に取り組んでいます。

また、高齢者、障害者等の移動円滑化を図るため、船舶、交通施設等のバリアフリー化を進めるとともに、関係自治体と地域の実情に応じて福祉政策と連携をとった交通施策を進める必要があります。この新法に基づき、粟国航路にはカーフェリー、座間味航路には高速船が平成十四年八月には就航予定です。

○旅客等輸送実績

離島航路	年度	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12
	輸送人員(千人)	2,039	2,049	2,049	2,167	2,484	2,514	3,158	3,097	2,988	3,165
	貨物量(千トン)	540	511	534	524	603	602	500	541	500	425
	自動車航送(千人)	124	133	143	145	160	160	159	160	176	186

本土航路	年度	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12
	輸送人員(千人)	170	164	162	144	132	124	107	101	104	101
	運航回数	1,035	1,058	1,059	1,040	943	906	842	890	713	786
	貨物量(千トン)	3,405	3,479	3,523	3,248	3,216	3,401	3,790	3,979	3,979	4,014